



金融庁

Financial Services Agency

採用案内

金融庁の職員

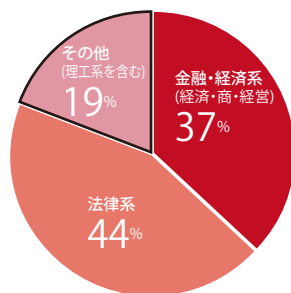
0fficials of Financial Services Agency

ダイバーシティ

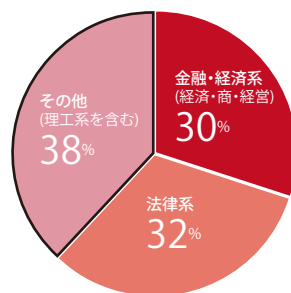
金融行政には、金融・経済、法律はもちろん、他にも多くの分野の知識が必要です。

金融庁は、弁護士や公認会計士、アクチュアリーなどさまざまな分野の民間専門家を登用するとともに、新規採用においても、金融・経済系や法律系のほか、理工系など多様な専攻分野を持つ方を採用しています〔下図参照〕。

■ 直近4年間の新規採用者の出身学部(専攻)



◎総合職



◎一般職

なお、官庁訪問に臨むにあたり、金融・経済の専門知識は必要ありませんが、興味・関心は持っていてほしいと考えています。

業務に必要な金融・経済の専門知識は、入庁後に実務を通じて身につけることが可能です。しかし、入庁後にこうした専門知識を学ぶ上では、金融・経済に対する興味・関心と、課題ある現状を変えようという想いを持っていることが大切です。

官庁訪問の際には、みなさんが金融・経済について持っている想いや問題意識を、ぜひ、職員にぶつけてみてください。

Messages 01 法科大学院出身

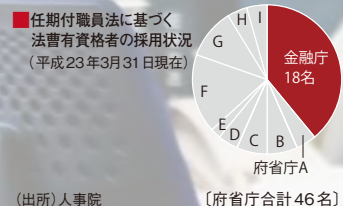
総務企画局市場課
新谷亜紀子
平成24年入庁

「法律」を活かせる職場

私は現在、株式の発行や取引、証券会社・証券取引所などに関する法律(金融商品取引法)を改正する業務を担当しています。

学生時代、法科大学院に在学していた私は、学んだ法的思考力や知識を「制度づくり」に活かしたいと考え、金融庁に入庁しました。金融制度は、経済情勢に即した的確かつスピーディーな整備を行う必要があり、それを行うためには高度な法的知見が求められます。このことから、金融庁は府省庁の中でも多くの法曹有資格者を採用しています〔下図参照〕。

同時に、金融庁は国際交渉や検査・監督業務なども行っているため、私も「法律の専門家」というだけではなく、金融に関する幅広い見識を備えた行政官となるべく経験を重ねていくことになります。こうした点も、金融制度の企画・立案に止まらず多様な政策課題に取り組みたいと考えていた私には、魅力的に映りました。



Messages 02 経済学部出身

総務企画局企画課
原口直樹
平成25年入庁

日本経済の血液:金融

私は現在、日本の金融制度がどうあるべきかを中長期的視点から検討し、制度設計を行う業務に携わっています。

金融は経済の血液と言われてます。経済学の知識を活かすことで、その血液の循環をより良くし、日本経済の活性化に繋がりたい—学生時代、経済学部にて在学していた私は、そう考えて金融庁に入庁しました。民間企業が資金調達しやすい環境、個人投資家や機関投資家など多様な主体が民間企業に投資しやすい環境を整備する金融庁の業務は、日本経済にとってきわめて重要です。

日々変化する経済情勢を見きわめつつ、さまざまな分野の民間専門家〔下表参照〕と知恵を出し合い、自由な発想で最適な政策を立案する。こうした業務と一緒に携わりませんか。

■金融庁における民間専門家の登用 (平成26年4月1日現在)

弁護士	39名
公認会計士	57名
アクチュアリー	6名
不動産鑑定士	7名
情報処理技術者等	27名
金融実務経験者等	220名
合 計	356名

(金融庁職員合計約1,500名)



Messages 03 理工学部出身

監督局証券課
西村霞美
平成24年入庁

金融界の理系人材

私は現在、各国金融当局や国際機関と連携し、グローバルに活動する民間金融機関を監督する業務に携わっています。

近年、アクチュアリー、クオンツ、金融取引システムの専門家など、数理的な素養を活かして金融界で活躍する理系人材が増えるなか、金融庁においても、カウンターパートである金融機関の方々と、リスクの計量分析などについて数理的な素養を活かした意見交換を行う機会が多くあります。学生時代、理工学部にて在学していた私は、そうした民間の理系人材と金融行政の橋渡しがしたいと考え金融庁を志望しました。

そのような想いを実現するため、現在は、金融庁に多く在籍する理系出身の諸先輩の活躍を励みに、自分に不足していた金融・経済や法律の知識を身につける毎日です。

■金融庁における理系学科の採用例

応用化学	システム創成学
化学	情報工学
管理工学	数学
航空宇宙工学	物理学
生産工学	物理工学
生物科学	薬学



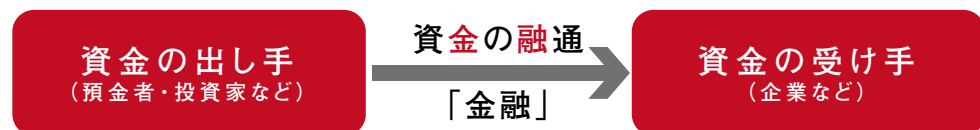
金融について

Financial Services

イントロダクション:「金融」は身近な存在

みなさんは「金融」と聞いて、なにをイメージしますか？

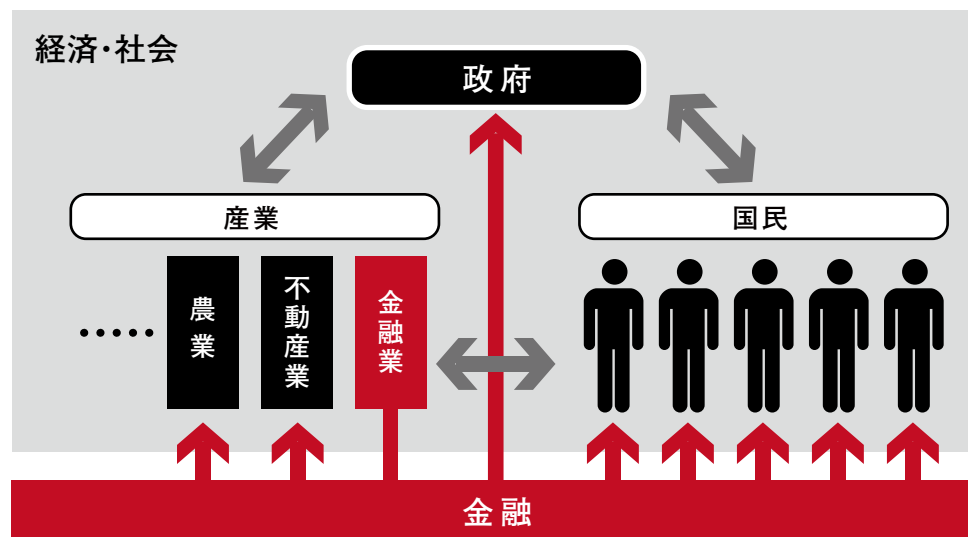
毎日ニュースで流れる株価、時として話題になるインサイダー取引事件、あるいは、ひと昔前の話として聞くバブル崩壊など、金融に関する話題というと、難しくて専門的、自分自身と縁遠い分野だと感じるかも知れません。しかし実際には、金融はみなさんにとって身近な存在です。



金融とは、「資金の融通」、言い換えれば「世の中のお金の流れ」のことです。アルバイトで稼いだ給料を銀行に預金する、クレジットカードを使って買い物をする、あるいは、海外旅行をする際に旅行保険に加入する…これらはすべて、金融の1つです。金融は日常にごくありふれた、身近なものなのです。

金融の2つの特徴

金融は、企業や政府にとっても身近なものであり、また、重要なものでもあります。たとえば企業は、設備投資を行うために銀行からお金を借りる必要があるでしょう。また、政府は国債を発行するにあたり、投資家を募ってお金を出してもらわなければなりません。このように、あらゆる経済主体が活動を行うにあたり、金融が必要になってきます。金融は、経済・社会を支える「インフラ」として捉えることができるのです。



一方で、金融を1つの「産業」として捉えることもできます。経済主体同士の資金のやり取りは、銀行や保険会社、証券会社などの金融業によって仲介されています。金融業は、不動産業や農業などと並び、各国の主要産業の一角を占めています。就職先を考えるみなさんにとっては、こちらの方が身近なイメージに近いかもしれません。

「インフラ」としても、「産業」としても捉えることができる。これは金融の1つ目の特徴です。

金融の2つ目の特徴は、その便利さとリスクに関係します。

金融は、時間を超えた経済活動を可能にする便利なツールです。たとえば、みなさんのご両親が住宅ローンを組むことで、現時点で有する預貯金以上の家を買うことが可能になる、といった具合です。

他方で、時間を超えるというその機能ゆえに、元来不確実性(リスク)を抱えています。先の例で言えば、将来予想外の収入減少により住宅ローンの返済が滞ることが挙げられます。

金融の便利さとリスクは、本質的に表裏一体と言えるでしょう。

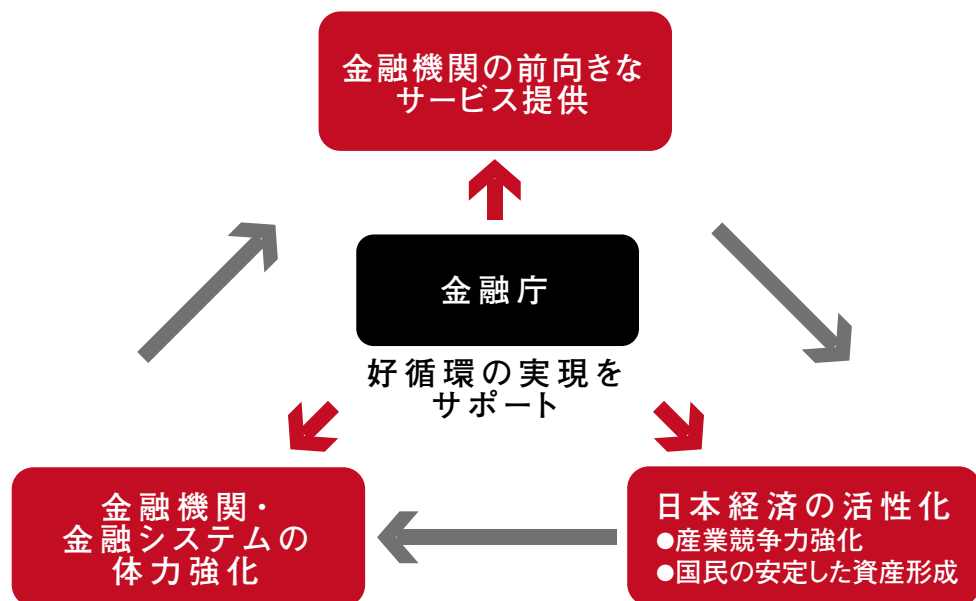
金融庁の任務

Missions of Financial Services Agency

金融はあらゆる経済主体が利用する「インフラ」ですから、その機能を安定的に維持することは、経済・社会全体にとって重要です。また、「産業」としての金融を、日本経済をリードする成長産業へと導くことも同様に重要です。金融が本質的に抱える「リスク」を適切にコントロールしながら、こうした目標を達成すること、これが金融庁の任務です。

具体的には、金融庁は、金融機関やその利用者（預金者・投資家、企業など）と向き合って金融が抱える課題・問題を見つけ出し、必要に応じて金融制度（法令など）の整備や、個々の金融機関との対話を行っています。また、個々の金融機関に優れた取組みがあれば、これを広めることで金融業全体のレベルアップを図っています。

さらに金融庁は、こうした取組みを支えるため、国内外の経済情勢はもとより、これに影響する地方の人口動態や海外の政治情勢に至る、日本の金融を取り巻くあらゆる情報を把握する努力を行っています。



インフラとしての金融

MISSION 01 経済・社会を安定的に支える金融の実現

そのために必要なこと

- 国民・企業・金融機関等における資金の流れを円滑化し、経済成長を支える企業・産業に対し十分な資金を供給
- 国民（預金者、投資家）が安心して利用できる金融システムを構築

産業としての金融

MISSION 02 成長産業として日本経済をリードする金融の実現

そのために必要なこと

- 金融サービスを進化させることで金融機関の経営力を高め、高収益を確保
- 特に、新興諸国の成長を取り込むため、金融機関の海外進出力・資産運用力を強化

国際社会における金融

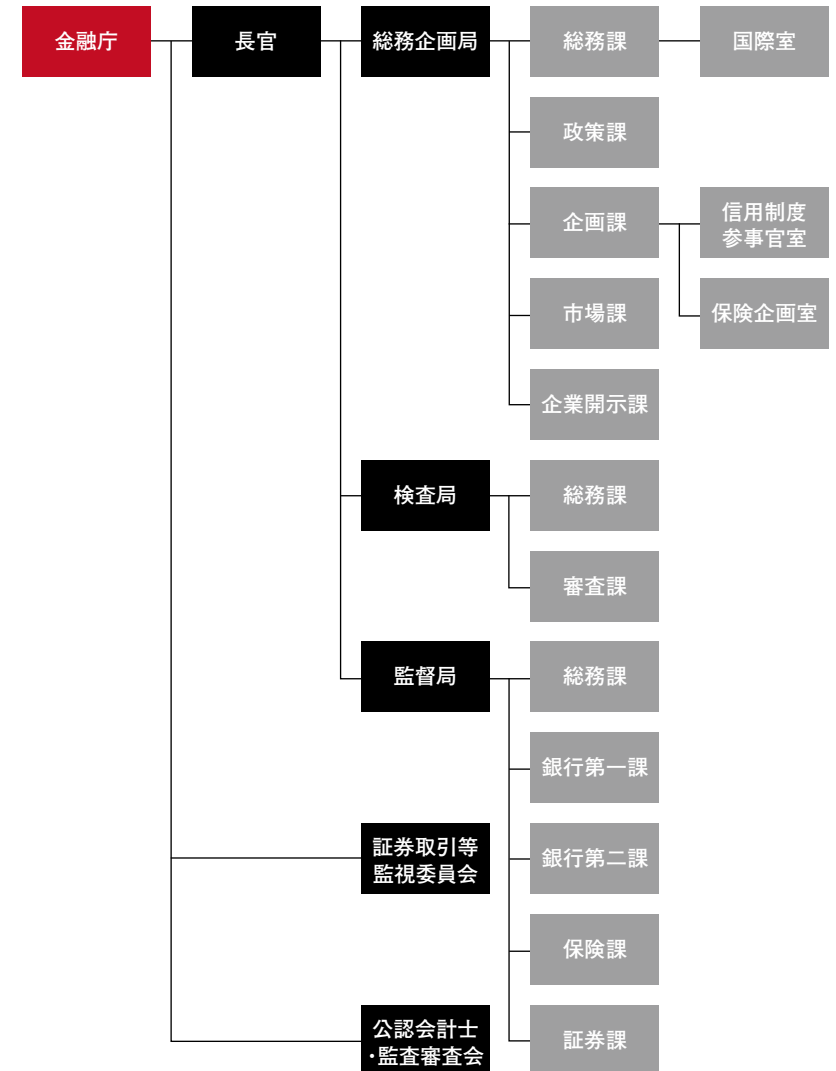
MISSION 03 世界的な金融危機の再発防止に向けた枠組みづくり

そのために必要なこと

- 国際的な金融規制改革を巡る議論に積極的に参画・貢献
- 国際的な議論を反映し、より質の高い日本の金融規制を実現

金融庁の組織 [概略]

Organization of Financial Services Agency



採用について

Recruitment

求める人材像

金融行政のプロフェッショナルとなるポテンシャル・意欲のある方

■金融だけでなく、経済・産業や社会全体に対して

アンテナを高く張り巡らす「視野の広さ」「好奇心」

■法律、経済、会計、語学、金融工学…など幅広い分野の知識を吸収する「向上心」

■自由な発想で最適な政策を立案する「柔軟なアタマ」

■自らの手で日本を良くし、国民の幸せに貢献したい「気概」「志」

採用実績〔 〕内は女性数(内数)

年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合職(旧I種)	14〔3〕	17〔7〕	12〔6〕	16〔8〕
一般職(旧Ⅱ・Ⅲ種)	18〔9〕	24〔11〕	6〔3〕	26〔7〕

勤務地

東京(金融庁本庁)での勤務が中心となりますが、職務の要請による地方・海外勤務もあります。

■金融庁本庁以外の勤務先(平成26年3月1日現在の例)

国内

- 各地の財務局 東北財務局、関東財務局、近畿財務局 等
- 他省庁 財務省、厚生労働省、経済産業省 等
- 日本銀行・民間企業 日本政策投資銀行、日本取引所グループ 等
- 地方自治体 石巻市、川崎市

海外

- 国際機関 金融安定理事会(FSB)、証券監督者国際機構(IOSCO) 等
- 海外当局・在外公館等 米国証券取引委員会(SEC)、在ニューヨーク日本国総領事館、在英国日本国大使館 等

前採用担当者として

監督局銀行第二課

水谷登美男 平成24年入庁

私は入庁して最初の1年間を採用担当として過ごし、金融庁を考えているみなさんに金融行政の魅力を伝えてきました。ここでは、私がみなさんに特に知っておいてもらいたい魅力をご紹介します。

地域経済から世界経済まで

「金融」は世界中の森羅万象の動きの影響を受け、また、これに影響を与えるものと言われる。現在私が携わっている地域金融機関の監督業務においては、監督対象である地域金融機関の経営・財務状況に加え、その取引相手である地域の中小企業の経営・財務状況も把握することが必要とされます。

また同時に、地域金融を含めた日本の金融は世界の金融と密接に関係しているため、世界各国の金融情勢も把握しなければなりません。世界の金融システムにどんなリスクが潜んでいるか、そのリスクと日本の金融機関・投資家の繋がりはどうなっているのか—こうした情報の収集・分析も不可欠です。

このように、地域経済から世界経済までを広く視野に入れて業務を行えることは、金融行政のひとつの魅力だと考えています。

視野の広さと専門性のベストミックス

広い視野が必要とされる一方、金融庁職員には、金融・経済、法律、会計など、さまざまな専門性を磨くことも求められています。近年、金融機関の業務は高度化し、そこで用いられる知識の専門性も高まっているからです。

私も、広い視野と専門性を併せ持つ職員となり、日本経済を支える強固で活力ある金融システムの構築に貢献できるよう、日々自己研鑽に励む毎日です。

こうした職場を魅力的と感じるみなさん、ぜひ、金融庁の扉を叩いてみて下さい。



FINANCIAL
SERVICES
AGENCY

<http://www.fsa.go.jp/>